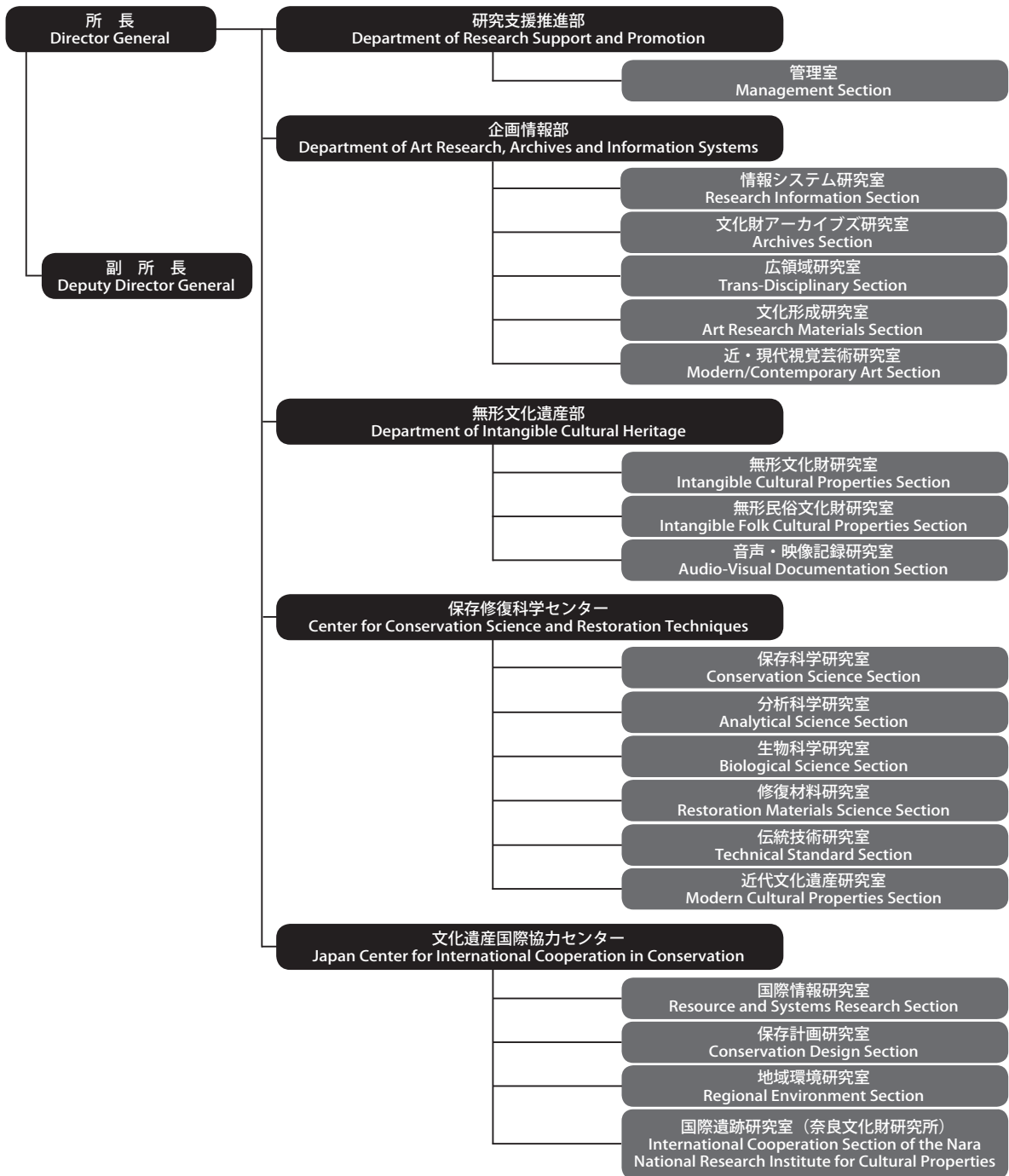


1. 機 構

1. 組 織 図

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
Independent Administrative Institution
National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo



2. 組織の概要と職員

所 長 亀井 伸雄（建築史）、副所長 田中 淳（日本近代絵画史）

(1) 研究支援推進部

研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理室に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。

本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

総 務 係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設並びに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規定の制定・改廃に関する事務等を行っている。

財 務 係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

契 約 係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び、旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

<組織概要>

研究支援推進部長	島 崎 正 弘	事務補佐員	小田切 真 梨
管 理 室 長	平 出 秀 文	財 務 係 長	古 澤 誠
総 務 係 長	長 澤 由美子*1	事務補佐員	前 田 桐 里
総務係主任	安 川 政 和*2	事務補佐員	中 村 知 華*10
事務補佐員	平 野 好 美*3	事務補佐員	町 田 沙 織*8
事務補佐員	小 林 美 貴	契 約 係 長	中 濱 拓 郎
事務補佐員	上 松 祐貴子*4	事務補佐員	松 井 理 恵*11
事務補佐員	尾 池 彩 子*5	事務補佐員	吉 丸 美由紀
事務補佐員	滝 口 麻 理*6	事務補佐員	谷 口 彩*12
事務補佐員	光 富 麻李香*7	事務補佐員	高 橋 望*4
事務補佐員	勝 田 こ と*8	事務補佐員	荒 木 晶*13
企画渉外係長	林 昌 宏*9	事務補佐員	小 河 みづほ*13
企画渉外係主任	今 城 裕 香	事務補佐員	佐 藤 由可子*14
アソシエイトフェロー	鈴 木 絢 香	事務補佐員	鈴 木 諒 子*7

事務補佐員 白井穂奈美*7

事務補佐員 杉本朋世*15

*1平成28年1月1日付東京国立博物館へ配置換、*2平成28年1月1日付東京国立博物館より配置換、*3平成27年6月30日付退職、*4平成27年4月30日付退職、*5平成27年4月1日付採用、平成27年9月30日付退職、*6平成27年5月25日付採用、*7平成27年7月1日付採用、*8平成27年11月1日付採用、*9平成28年1月1日付本部事務局より配置換、*10平成27年4月1日付採用、平成27年10月31日付退職、*11平成27年7月19日付退職、*12平成27年11月30日付退職、*13平成27年4月1日付採用、14平成27年5月18日付採用、*15平成28年1月18日付採用

(2) 企画情報部

企画情報部は、文化財に関する専門的アーカイブを構築して外部に発信するほか、所内の情報システムを管理し、広報企画事業を行い、資料閲覧室や画像情報室を通じて資料の作成と公開を担う。また、日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究のための高質な資料や情報を作成し、その成果を積極的に刊行することを目指す。研究に際しては、時代や地域などの枠にとらわれない広領域的な研究テーマを設定して、他の分野との連携を進める。

情報システム研究室

情報システムの構築・管理を行い、年報の編集・刊行やウェブサイトの構築・運用を通じて、研究成果の公開を行う。また、研究支援推進部と連携して広報事業を行う。

文化財アーカイブズ研究室

文化財の専門的アーカイブとして、文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集、整理し、全所的にとりまとめて公開する。

資料閲覧室：受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に一般の利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。図書資料、写真資料等のオンライン検索に対応するとともに、写真資料は主題別・作家別に分類・配架し、閲覧に供する。

広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から美術を研究し、その材料、技法、制作過程等を明らかにする。

画像情報室：各研究部門の依頼や外部機関の要請により、文化財を撮影し、画像を形成するほか、光学的理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

文化形成研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集、整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査、研究する。

企画情報部は以下の事業を行う。

(1) 文化財に関する専門的アーカイブの拡充

他機関との共同調査研究により高精細デジタル画像を作成するとともに、当所の各研究部門と共同で画像資料のデジタル化等を推進し、画像管理と内部閲覧を目的とする画像データベースを運用する。また、これらの画像資料に、文献資料、および研究的情報を付加し、より充実した文化財アーカイブの形成を進める。

(2) 研究情報の自己評価

所内の各部門が遂行する研究の新しい成果を共有し、かつ互いに評価し合う場として総合研究会（年5回程度）を企画、開催するとともに、各年度の研究や事業を総括した年報を編集する。

(3) 研究情報の外部発信と共有化

研究情報発信のため、ウェブサイト及び外部公開データベースの一層の充実を目指す。広報委員会の情報システム部会を運用し、情報システムの効率化とウェブサイトの充実について協議し、LANを活用して所内の情報化を進め、情報公開の要請に即応できる体制を整える。

(4) プロジェクト研究

歴史的な観点から美術を捉えることによって、モノに対する理解を深めると同時に、その成果を文化財の保存、修復、保護、公開に役立て、かつ常に新しい研究方法と研究領域を開拓して、社会に貢献することを目指す。1930（昭和5）年の美術研究所の創設以来、東京文化財研究所が今日まで果たしてきたアーカイブとしての任務を認識し、美術研究のための資料や情報を、より高品質で信頼性のあるものにする、そしてそれらの有効な活用と社会への還元を心がける。また、新しい研究方法や研究領域の開拓のためには、関連分野との連携のみならず、国内外の研究機関や研究者との研究交流が重要と考え、研究のためのネットワークを構築し、その中心的役割を担う努力を続ける。その実現のために、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究、東アジアの美術に関する資料学的研究、近現代美術に関する総合的研究、美術の技法・材料に関する広領域的研究を遂行する。

(5) 研究成果・研究情報の公開

『美術研究』（年3冊）、『日本美術年鑑』（年1冊）、種々の報告書を公刊して、調査研究の成果を公表する。また研究成果の一端を、一般向けの講演会であるオープンレクチャーにて披露する。

(6) 黒田記念館の運営と黒田清輝に関わる研究情報の公開

黒田清輝（1866-1924）の遺言に基づいて造られた黒田記念館には、東京文化財研究所の前身である美術研究所と黒田記念室が置かれた。独立行政法人国立文化財機構の発足に伴い、黒田記念館と黒田清輝作品の管理を東京国立博物館が行うことになったが、作品と研究成果の展示については当部が担当する。また当研究所のウェブサイトで、作品の高精細画像や黒田が書いた日記のテキスト等、黒田研究のための基礎資料を公開する。

〈組織概要〉

企画情報部部长	山 梨 絵美子（日本近代絵画史）	研究補佐員	田 中 潤（近代美術史料）
情報システム研究室長	二 神 葉 子（考古科学）	研究補佐員	阿 部 朋 絵（美術資料）
文化アーカイブズ研究員	津 田 徹 英（日本彫刻史）	研究補佐員	細 川 民 子（美術資料）*3
広領域研究室長	小 林 公 治（物質文化史）	研究補佐員	谷 口 每 子（画像形成）*5
文化形成研究室長	小 林 達 朗（日本中世絵画史）	研究補佐員	渡 邊 美 里（画像形成）*6
近・現代視覚芸術研究員	塩 谷 純（日本近代絵画史）	研究補佐員	三 木 美奈子（画像形成）*7
主任 研究員	皿 井 舞（日本彫刻史）	客員研究員	吉 田 千鶴子（日本近代美術史）
研 究 員	安 永 拓 世（日本近世絵画史）	客員研究員	三 上 豊（近現代美術）
研 究 員	橘 川 英 規（美術資料）*1	客員研究員	丸 川 雄 三（情報学）
専 門 職 員	城 野 誠 治（画像情報室・文化財写真）	客員研究員	中 野 照 男（東洋絵画史）
アソシエイトフェロー	橘 川 英 規（美術資料）*2	客員研究員	津 村 宏 臣（情報学）
アソシエイトフェロー	福 永 八 朗（情報システム）	客員研究員	近 松 鴻 二（近代史料）
アソシエイトフェロー	田 所 泰（日本近代美術史）*3	客員研究員	吉 崎 真 弓（美術資料）
研究補佐員	竹 花 真由子（画像形成）	客員研究員	河 合 大 介（美学・現代美術）*3
研究補佐員	野 田 吉 郎（美術資料）	客員研究員	片 山 ま び（東洋陶磁史）*8
研究補佐員	永 野 ひかり（画像形成）*4	兼 務	久 保 田 裕 道（無形文化遺産部）
研究補佐員	小山田 智 寛（フランス美学）	兼 務	早 川 泰 弘（保存修復科学センター）
研究補佐員	高 橋 佑 太（中国書道史）		

*1 平成27年7月1日付採用、*2 平成27年6月30日付退職、*3 平成27年4月1日付採用、*4 平成27年10月31日付退職、*5 平成27年5月1日付採用、*6 平成27年5月1日付採用、平成27年8月31日付退職、*7 平成27年12月1日付採用、平成28年1月31日付退職、*8 平成27年12月1日付採用

(3) 無形文化遺産部

無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。また重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。また、無形文化遺産分野について国内外との研究交流も実施している。

無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行っている。

音声・映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

無形文化遺産部は以下の事業を行う。

(1) 無形文化遺産に関する調査研究：技法・技術・慣習等、無形文化遺産は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、従来の文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

(2) 音声映像記録作成とデジタルアーカイブ化：無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行えない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

〈組織概要〉

無形文化遺産部長	飯島 満 (古典芸能)	客員研究員	齋藤 裕嗣 (伝統芸能・民俗芸能)
無形文化財研究室長	高桑 いづみ (古典芸能)	客員研究員	山崎 剛 (工芸技術)
無形民俗文化財研究室長	久保田 裕道 (民俗芸能)	客員研究員	原田 一敏 (工芸技術)
音声・映像記録研究室長(兼務)	飯島 満	客員研究員	荒川 正明 (工芸技術)
主任研究員	石村 智 (文化遺産学)*1	客員研究員	俵木 悟 (民俗芸能)
研究員	菊池 理予 (工芸技術)	客員研究員	松山 直子 (工芸技術)
研究員	今石 みぎわ (民俗学)	客員研究員	今岡 謙太郎 (古典芸能)
アソシエイトフェロー	佐野 真規 (映像アーカイブ)	客員研究員	永井 美和子 (修復技術)
研究補佐員	橋本 かおる (情報処理)	客員研究員	大西 秀紀 (古典芸能)
研究補佐員	伊藤 純 (民俗学)*2	客員研究員	鎌田 紗弓 (古典芸能)*3
客員研究員	星野 厚子 (古典芸能)	客員研究員	菊池 健策 (民俗学)*3

*1 平成27年4月1日奈良文化財研究所より配置換、*2 平成27年4月1日付採用、*3 平成27年6月1日付採用

(4) 保存修復科学センター

保存修復科学センターは、文化財の保存科学・修復技術の調査研究を行うナショナルセンターとしての役割を担うため、2007（平成19）年に保存科学部と修復技術部を統合して設立された。文化財保護の行政的要請に応え、文化財の所蔵者や保存修復の現場が直面する課題を解決するため、様々な科学分析や実験・観察により、調査研究を行っている。

保存科学研究室

文化財を安全に収蔵し公開活用するために、温度湿度・光・空気汚染物質など環境中の劣化因子が文化財に与える影響を調べ、劣化を予防する研究をしている。劣化因子の測定方法の基準化や基準値の設定、シミュレーションを利用した劣化予測研究を行い、安全に文化財を管理できる方法の確立を目指している。

分析科学研究室

文化財の材質や構造を様々な科学的分析手法によって調査し、文化財の化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。特に文化財の材質分析調査をその場で行うことを目的に、各種小型可搬型機器を用いた調査方法の開発とその応用研究を行っている。

生物科学研究室

生物による文化財の劣化機構の解明と防除法の研究を行っている。現在は特に、歴史的建造物や古墳など屋外に近い環境に置かれた文化財の生物被害、カビなどの微生物による被害について文化財の安全性はもとより、環境や人体への影響をも視野に入れた対策の開発に力を入れている。

修復材料研究室

伝統的修復材料の評価と改良、新しい修復材料の開発評価及び修復材料の適用方法の開発を行っている。最適な材料を選択するために、材料に影響を与える環境条件に関する研究も併せて行っている。

伝統技術研究室

文化財の伝統的修復材料と技術に関する情報収集と研究を行い、従来の材料・技術の改良や新たな開発を行っている。これらの研究は、文化財保存の適切な概念の構築も目標とし、国内のみならず海外での日本美術品の保存にも寄与している。

近代文化遺産研究室

航空機、鉄道車両、ダムやトンネルなど日本の近代化を担ってきた文化遺産に関して、保存修復のための情報収集、技術・材料の調査及び開発を行い、近代文化遺産として後世に伝えていくための保存手法・保存計画のあり方等を研究している。

保存修復科学センターは以下の事業を行う。

(1) プロジェクト研究

文化財に関連する各種領域の専門研究者を6室に配置し、文化財の材質及び構造、劣化・損傷の状態とその発生要因、劣化防止のための対策、修復のための材料・技法、伝統的な制作材料の化学的特性、さらに近代以降の新しい素材による文化財の保存方法などに関する研究を行っている。2011（平成23）年に始まる第3期中期計画（5カ年）においては、「文化財の材質及び劣化調査法に関する研究」「文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究」「文化財の保存環境の研究」「周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究」「文化財の防災計画に関する調査研究」「伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究」「修復材料の適用に関する調査研究」「近代の文化遺産の保存修復に関する研究」の8テーマによるプロジェクト研究を展開し、いずれも重要な成果を上げた。

(2) 受託研究・共同研究

文化財は自然環境の変化や不意の事故などによって劣化が進行することがあり、また社会構造や産業の変化によってこれまで使っていた修復材料が入手困難になる場合もある。さらに各種の分析手法の応用によっ

て文化財を調査し、材質や構造に関する新たな知見を得ることによって文化財としての再評価がなされる場合がある。文化財行政の要請に応じ、所蔵者との協議を経て、多くの受託研究・共同研究を実施し、さらに多くの成果をあげている。

(3) 調査・助言

地方公共団体に対して協力を行うことにより、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。「文化財の修復及び整備に関する調査・助言」「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」の4項目を実施している。

(4) 研修・教育

博物館・美術館・資料館等の文化財保存施設の学芸員や地方公共団体の文化財行政担当者を対象として、文化財保存に関する基礎的な知識や方法論を習得するための「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を毎年2週間の日程により実施している。本研修はすでに32回を数え、これまでの受講者に保存修復に関連する新しい情報を提供し続けることを目的としてフォローアップ研修を実施している。また1995（平成7）年から東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。

(5) 国立文化財機構における保存修復担当研究者の併任

国立文化財機構内の2研究所・4博物館の保存修復担当の研究者を保存修復科学センターの併任とし、先進的な分析方法による文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互の連携により、随時取り組む体制を構築している。

<組織概要>

保存修復科学センター長	岡田 健（文化財学）	事務補佐員	山田 くりか
保存修復科学センター副センター長	佐野 千 絵（保存環境学）	客員研究員	呂 俊 民（建築環境学）
保存科学研究室長	吉田 直 人（分光分析学）	客員研究員	渡 邊 真樹子（絵画修復）
分析科学研究室長	早川 泰 弘（分析化学）	客員研究員	酒 井 清 文（酵素工学）
生物科学研究室長	木川 り か（生物化学）*1	客員研究員	古田嶋 智 子（保存科学）
修復材料研究室長	朽津 信 明（地質学）	客員研究員	三 浦 定 俊（物理計測）
伝統技術研究室長	北野 信 彦（塗装技術史）	客員研究員	藤 井 義 久（木材科学）
近代文化遺産研究室長	中山 俊 介（船舶工学）	客員研究員	間 渕 創（保存環境学）
主任研究員	犬塚 将 英（物理計測）	客員研究員	横 山 晋太郎（航空機保存）
主任研究員	早川 典 子（高分子化学）	客員研究員	長 島 宏 行（航空機）
主任研究員	森井 順 之（土木工学）	客員研究員	小 堀 信 幸（船舶）
研 究 員	佐藤 嘉 則（微生物生態学）	客員研究員	本 多 貴 之（高分子分析）
アソシエイトフェロー	吉原 大 志（日本近代・物産史学）*1	客員研究員	高 林 弘 実（文化財科学）
アソシエイトフェロー	石田 真 弥（建築史）*2	客員研究員	堤 一 郎（産業技術史）
研究補佐員	小林 芳 妃（立体作品保存修復）*3	客員研究員	北 原 博 幸（建築環境学）
研究補佐員	小野寺 裕 子（文化財保存修復学）*4	客員研究員	石 崎 武 志（保存科学）
研究補佐員	石井 恭 子（保存修復日本画）	連 携 併 任	神 庭 信 幸（東京国立博物館）
研究補佐員	内田 優 花（保存科学）	連 携 併 任	高 橋 裕 次（東京国立博物館）*7
研究補佐員	佐多 麻 美（保存修復）	連 携 併 任	荒 木 臣 紀（東京国立博物館）
研究補佐員	國元 麻里奈（漆工技術）*5	連 携 併 任	和 田 浩（東京国立博物館）
研究補佐員	濱田 翠（文化財科学）*6	連 携 併 任	土 屋 裕 子（東京国立博物館）
研究補佐員	山府木 碧（漆工品保存修復）*2	連 携 併 任	鷺 塚 麻 季（東京国立博物館）*8
事務補佐員	矢野 幹 子	連 携 併 任	酒 井 元 樹（東京国立博物館）

連 携 併 任	瀬 谷 愛 (東京国立博物館)*7	連 携 併 任	木 川 り か (九州国立博物館)*9
連 携 併 任	大 原 嘉 豊 (京都国立博物館)*7	連 携 併 任	志 賀 智 史 (九州国立博物館)
連 携 併 任	羽 田 聡 (京都国立博物館)	連 携 併 任	秋 山 純 子 (九州国立博物館)
連 携 併 任	鳥 越 俊 行 (奈良国立博物館)	連 携 併 任	高 妻 洋 成 (奈良文化財研究所)
連 携 併 任	本 田 光 子 (九州国立博物館)	連 携 併 任	脇 谷 草 一 郎 (奈良文化財研究所)
連 携 併 任	今 津 節 生 (九州国立博物館)	連 携 併 任	田 村 朋 美 (奈良文化財研究所)

* 1 平成 27 年 10 月 1 日付九州国立博物館へ配置換、* 2 平成 27 年 12 月 1 日付採用、* 3 平成 27 年 10 月 31 日付退職、
 * 4 平成 27 年 6 月 30 日付退職、* 5 平成 27 年 4 月 1 日付採用、* 6 平成 27 年 5 月 1 日付採用、* 7 平成 27 年 4 月 1 日付併任、
 * 8 平成 27 年 12 月 1 日付併任解除、* 9 平成 27 年 10 月 1 日付併任

(5) 文化遺産国際協力センター

国際情報研究室

国際社会における文化財に関する理念、法理念、条約・憲章や、諸外国の文化財保護に関する法制度、保護の状況及び文化財と政治、宗教、民族との関わりなどについての調査研究を行う。また、東京文化財研究所が行う国際交流・協力等の専門的事項についての連絡調整を行う。

保存計画研究室

世界各国の文化財の保存・整備・活用計画、地域開発・観光開発と文化財との関わり等に関する調査研究と保存計画立案を行う。

地域環境研究室

世界各地の文化財をとりまく自然環境、歴史的・人文的環境、経済的環境と、それらが文化財に及ぼす影響ならびにその保存対策に関する調査研究を行う。

世界各国に存在する文化財は、国や地域を越えて人類共有の財産として認識され、多くの人々がその価値を享受する権利とともに、国際協力の下にそれらを守る義務をも課せられている。多様で豊かな文化財を有し、100年以上に及ぶ文化財保護の歴史と充実した保護制度を持ち、保存・修復のための科学研究と技術を発展させてきた日本が果たすべき役割は大きく、世界各国からの協力要請も年々増加している状況にある。

日本が文化財の分野における国際協力に取り組みだしたのは、比較的最近のことである。そのなかにあつて、当所の前身である東京国立文化財研究所は、1990（平成2）年に「アジア文化財保存研究室」を設置し、3年後にはこれを「国際文化財保存修復協力室」と改称し、1995（平成7）年に至り「国際文化財保存修復協力センター」に改組して体制を充実させてきた。2001（平成13）年の独立行政法人発足にあたっては、奈良文化財研究所国際遺跡研究室との間に、独立行政法人文化財研究所の国際関係活動の全般について連携協力する体制がとられた。さらに、2006（平成18）年には「文化遺産国際協力センター」と改称し、世界各国の文化財の保存・修復に関する国際協力の我が国における中心的な存在として活動している。

文化遺産国際協力センターが行っている国際関係の活動には、諸外国の専門機関・専門家との共同研究や研究交流、諸外国の文化財に関する保存修復協力事業、文化財保存専門家の人材育成、文化財の保護に関する国際情報の収集と解析、成果の公表などがある。これらの共同研究や研修、協力事業、情報収集、公表の具体的活動の詳細は、プロジェクト毎に別途記載している。

〈組織概要〉

文化遺産国際協力センター長	川野邊 渉 (高分子化学)	研究補佐員	嶋原 由美 (絵画修復)
国際情報研究室長	加藤 雅人 (製紙科学)	研究補佐員	木原山 奈々 (文化財科学)*5
保存計画研究室長	友田 正彦 (建築学)	研究補佐員	後藤 里架 (保存修復)*6
地域環境研究室長	山内 和也 (考古学)	研究補佐員	橋本 広美 (保存科学)*6
主任研究員	江村 知子 (日本絵画史)	事務補佐員	長谷川 泉*7
任期付研究員	山下 好彦 (漆工品保存修復)	事務補佐員	川嶋 陶子*2
アソシエイトフェロー	楠 京子 (絵画修復)*1	事務補佐員	半戸 文 (日本近代史)
アソシエイトフェロー	山田 祐子 (絵画修復)	事務補佐員	栗原 浩邦*8
アソシエイトフェロー	佐藤 桂 (建築学)	事務補佐員	河野 輝美*6
アソシエイトフェロー	境野 飛鳥 (保護制度)	客員研究員	石井 美恵 (染織修復・染織品保存科学)
アソシエイトフェロー	久米 正吾 (考古学)	客員研究員	前川 佳文 (壁画保存修復)
アソシエイトフェロー	川口 雄嗣 (木造建造物)	客員研究員	間 舎裕生 (考古学)
アソシエイトフェロー	田島 さか恵 (世界遺産・遺産マネジメント)	客員研究員	谷口 陽子 (保存科学)
アソシエイトフェロー	山田 大樹 (地域計画)	客員研究員	松田 泰典 (保存科学)
アソシエイトフェロー	井内 千紗 (文化政策)	客員研究員	大河原 典子 (日本画)
アソシエイトフェロー	狩野 麻里子 (文化マネジメント)*2	客員研究員	原本 知実 (国際政治学)
アソシエイトフェロー	増 渕 麻里耶 (考古冶金学、分析化学)	客員研究員	藤澤 明 (保存科学)
アソシエイトフェロー	山藤 正敏 (考古学)	客員研究員	古川 尚彬 (歴史的環境保全)*9
アソシエイトフェロー	小田 桃子 (絵画修復)*3	客員研究員	杉山 恵助 (東洋絵画修復)*9
アソシエイトフェロー	川嶋 陶子 (考古学)*3	兼 務	二神 葉子 (企画情報部)
研究補佐員	近藤 洋 (アンデス考古学・文化人類学)	兼 務	石村 智 (無形文化遺産部)
研究補佐員	山之上 理加 (絵画修復)	・国際遺跡研究室 (併任)	
研究補佐員	北川 瑞季 (建築史)	室 長	森本 晋 (奈良文化財研究所)
研究補佐員	草薙 綾 (東アジア地域研究)*4	研 究 員	田村 朋美 (奈良文化財研究所)

*1 平成28年2月29日付退職、*2 平成27年6月30日付退職、*3 平成27年7月1日付採用、*4 平成27年5月31日付退職、*5 平成27年7月31日付退職、*6 平成27年8月1日付採用、*7 平成27年12月31日付退職、*8 平成27年6月1日付採用、*9 平成27年4月1日付採用